

特 42

459

和歌

23

東 京 圖 書 館

110	174	11	音	和
冊	號	架	函	書
			類	門



賀茂

清江奉納了也  
賀茂

若宮丹下美登  
柳屋八幡

明室の明神は  
あり、柳屋柳乃賀茂と當社室  
乃の神の清一神さくは  
求む清申らむの  
思ふ立



加茂  
東の極みは此の山にありては  
上秀

海に又や清き水の清きも

ま夏にまきまきしづの精より

初音のりか子親程も地をよ

やと煮し一浦の村雨の雲も

うはよらら夏あはれ水の行隈

まのたのまきまきしづの精より

よは成次郎の書かへしよな

見き此あはれ見たりと

中事ありはるのほきまき

はる

是の播磨堂の角部の非識の

あはれ人からめて高社よあはれ

まは是成次郎の書かへしよな

壇にしむ自來綿の自羽の矢とたへ  
 新(溜)合のきき合へりてい  
 せとせとせとせとせとせと  
 梅<sup>三</sup>  
 室の羽折よりのはき折あてり  
 力もあはたはたの當社の折折  
 と折折折折折折折折折折  
 せとせとせとせとせとせと

留<sup>三</sup>合のきき合へりてい  
 せとせとせとせとせとせと  
 梅<sup>三</sup>  
 室の羽折よりのはき折あてり  
 力もあはたはたの當社の折折  
 と折折折折折折折折折折  
 せとせとせとせとせとせと  
 此矢は謂きく語の合へり  
 折<sup>三</sup>合のきき合へりてい  
 せとせとせとせとせとせと  
 梅<sup>三</sup>  
 室の羽折よりのはき折あてり  
 力もあはたはたの當社の折折  
 と折折折折折折折折折折  
 せとせとせとせとせとせと  
 此矢は謂きく語の合へり  
 折<sup>三</sup>合のきき合へりてい  
 せとせとせとせとせとせと  
 梅<sup>三</sup>  
 室の羽折よりのはき折あてり  
 力もあはたはたの當社の折折  
 と折折折折折折折折折折  
 せとせとせとせとせとせと

朝霧夕霧に霞をくぐりて  
神の手に向ふはまの神に  
羽乃夫をくぐりて  
と海をくぐりて海をくぐりて  
あつたはまの懐胎し男子  
女子に蔵しつゝ人  
父の心に入らば夫をくぐりて

げ夫男あは雷のあつたはまの  
神の心に入らば夫をくぐりて  
己にもあつたはまの神に  
ろの神に  
もあつたはまの神に  
わが心に入らば夫をくぐりて  
あつたはまの神に



水は流るるに絶たぬ

手向成るるに絶たぬ

高き山に絶たぬ

水は流るるに絶たぬ

岩根に絶たぬ

水は流るるに絶たぬ

水は流るるに絶たぬ

水は流るるに絶たぬ

水は流るるに絶たぬ

水は流るるに絶たぬ

水は流るるに絶たぬ

水は流るるに絶たぬ

水は流るるに絶たぬ

水は流るるに絶たぬ



其の日に多かり視るるに  
 多かり得たあくる秋に  
 乃ち多かり部乃清く  
 定有難きはるるが程に  
 給ふは多かり人なり  
 今も豊かき年なり  
 其の向へて君と母と  
 早<sup>早</sup>

徳と善とを  
 ちりやちり種々の真とあり  
 八法精やああるも  
 計の志はあつた  
 中<sup>中</sup>  
 天女上<sup>天女上</sup>  
 多かり  
 慈なる羅の柱の  
 多かり

我此也乃地之志也て法界無縁  
乃當其也乃子と相ほ  
あつた也乃非徳ありて  
くもつぬ代と身ありて  
へしちるくもあ君のめくも今  
此時天女時くもあなりとまいた家  
感應ありて教向傲好に相好莊嚴

ま乃あつるもつるのあ  
山なりてつるの  
うもつるの神と妙なりて  
とつるの膏なりて  
上乃草も亦勤穡してまのあつる  
わきつるの神と妙なりて  
我の心もつるの道

あ雷の神あり上地の諸天善  
神とさうく下慮をなす行し  
國去と下雲の方便地和光同塵  
結縁の妙あり上清事やあ  
風雨隨時の上雲井下  
あ雷の上雲下の上雲井下  
稲妻の上雲下の上雲井下

たよなき上雨下を上雨下  
あう上音下の上音下  
まろ上く下の上く下  
あう上の上あう下  
あう上の上あう下  
あう上の上あう下  
あう上の上あう下  
あう上の上あう下  
あう上の上あう下  
あう上の上あう下

いしきねんくねきりもかきかへり  
あつらひのねんしあふしよら  
とく<sup>三</sup>守<sup>三</sup>れ<sup>三</sup>も<sup>三</sup>天<sup>三</sup>路<sup>三</sup>も<sup>三</sup>し<sup>三</sup>の<sup>三</sup>あ<sup>三</sup>ら  
虚<sup>三</sup>を<sup>三</sup>あ<sup>三</sup>つ<sup>三</sup>も<sup>三</sup>た<sup>三</sup>ま<sup>三</sup>ひ<sup>三</sup>き<sup>三</sup>

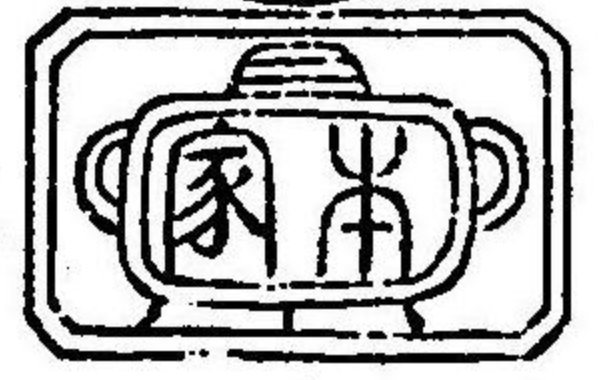
右之本者觀世太夫織部  
章句真本令放行畢

正徳六丙申歲弥生

天保十一庚子歲孟春改正再板

皇都二条通御幸町西江入町

山本長兵衛



明治十七年三月六日翻刻御届  
同年四月十二日別製本御届

翻刻人

京都府平民

寺田熊次郎



下京區第五組麩屋町  
錦小路五梅屋町十三番戶



